

第3章 吉賀町の医療・介護の現状と課題

1. 地域特性・社会の概況

(1) 地域特性

吉賀町は、島根県の南西部に位置し、本庁舎は東経131度56分10秒、北緯34度20分58秒、標高311.8m地点、分庁舎は東経131度52分13秒、北緯34度26分19秒、標高181.6m地点に所在します。

本町は、西中国山地の脊梁地帯に位置し、総面積は336.29Km²です。町土構成は、山林92.2%、農地3.0%、その他（河川・道路他）4.8%となっています。周辺部には、安蔵寺山や鈴ノ大谷山をはじめとする1,000m級の高峰が嶺を連ね、町内をほぼ南北に一級河川・高津川が貫流しており、水と緑に囲まれた農山村地域です。

旧六日市町地区は、高津川流域に沿って石西地方ではスケールの大きい河谷平野を有しています。そしてこの高津川に流れ込む各支流域の河岸段丘に集落が形成されています。旧柿木村地区は、急峻な山々の間を河川が流れ、狭隘な谷底平野に農地と集落が位置するという特色をもっています。

日本に残る数少ない清流となった高津川は、県下第3位の幹川流路延長81Km、流域面積1,090Km²を誇り、ダムのない川でも有名です。良好な水質環境は水生生物の宝庫ともなっており、ゴギやヤマメ、オヤニラミやツガニ等、希少な淡水魚類が棲息しています。

流域には、安蔵寺山を中心とした美しい山なみが連なり、広葉樹や岸ツツジ等が四季折々に色をそえる豊かな自然景観を有しています。高津川は太古の昔、瀬戸内海に流れ込む深谷川に河川上流部を奪われ（いわゆる河川争奪）、切頭された下流域は流水の減少により泥沼化された地域が残るという、特異な地形を呈しています。また、水源（田野原地区の一本杉の下湧水池）を特定できる珍しい一級河川としても有名です。

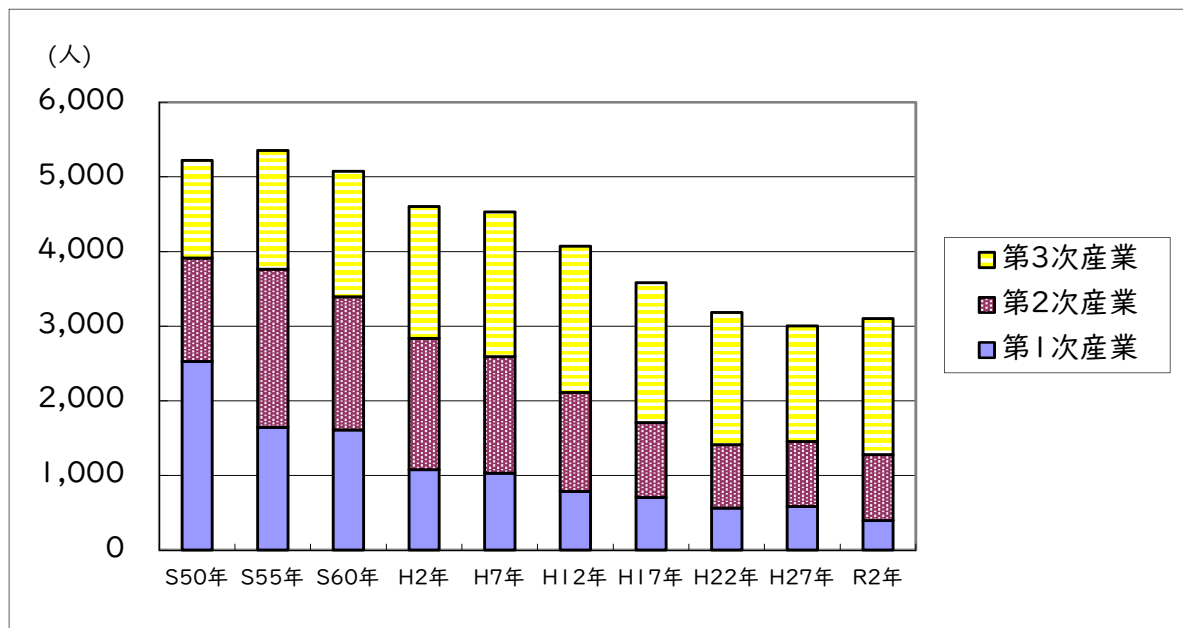
気象は、典型的な山陰型気候で、年間の平均気温は13.3℃、年間降水量の平均は1,900mm前後と比較的多いほうです。また、冬季間の積雪も多く、地域によっては交通の途絶も年数回発生することもあります。

(2) 社会の概況

① 産業

本町のかつての基幹産業であった農林業を中心とした第一次産業は、国の農業政策の転換や、農業従事者の高齢化、後継者不足、公共土木事業の増加や進出企業による生産活動等により就業者数が減少してきています。近年は定年帰農者、都会からのUIターン者があるものの、高齢化に歯止めがかからず、担い手の減少による耕作放棄地の増加が懸念されます。第二次産業の就業者数も公共土木事業の減少などにより減少傾向にあります。第三次産業の就業者数は医療、高齢者福祉サービス関連業への就業者が増加傾向にありましたが、近年横ばいに転じています。

□ 産業別就業人口の推移



(資料:総務省 国勢調査)

② 交通

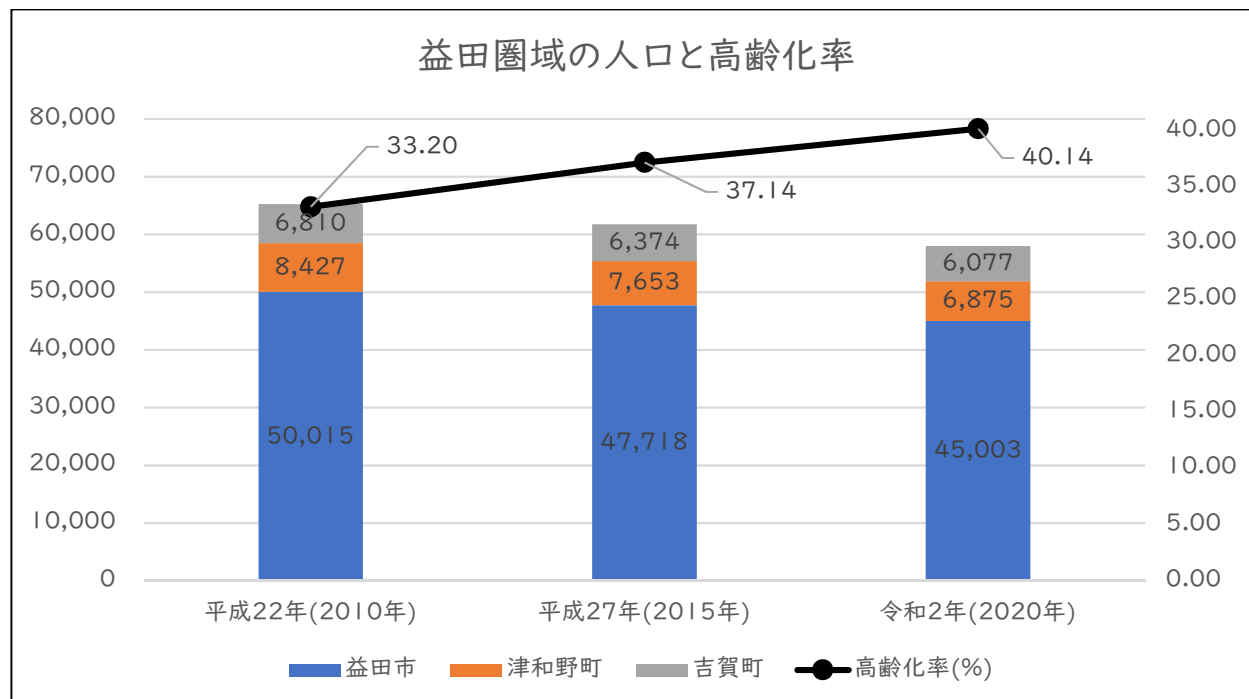
中国自動車道の六日市インターチェンジがあり、高速交通へのアクセスが確保されています。また、陰陽を結ぶ国道187号線をはじめ、県道3号線、12号線、16号線、42号線が通っています。山陰・山陽の中間点に位置する吉賀町では、道路交通が唯一の交通手段です。行政圏域は益田圏域に属していますが、社会経済面では山陽側の影響を強く受けています。

公共交通機関としては、路線バスが唯一の手段であり、デマンドバスや益田ー広島線、六日市ー日原線、六日市ー錦町線などがあります。バス利用者の多くは、他に移動手段を持たない学生や高齢者であり、日常生活を支える重要な社会資源となっています。

2. 人口の推移

(1) 益田構想区域の人口推移

島根県地域医療構想における益田構想区域全体で、人口減少及び高齢化が進んでいます。令和2年の国勢調査結果によると、総人口は57,955人となっており、平成22年の65,252人と比較すると7,297人の減少(▲11.18%)となっています。高齢化率は令和2年で40.14%まで上昇しており、平成22年の33.20%と比較すると6.94%の増加となっています。圏域いずれの自治体においても、人口流出と高齢化が進行している状況です。



(資料:国勢調査)

(2) 吉賀町の人口推移

①町全体の人口推移

吉賀町では、平成17年から令和2年の国勢調査において、年少人口及び生産年齢人口は一貫して減少していますが、高齢者人口については、年により増減はあるものの平成27年以降は減少傾向にあり、全国的に団塊の世代が75歳以上となる2025年問題に先駆けて高齢社会に突入していることが窺えます。

区分	H17年 (2005年)	H22年 (2010年)	H27年 (2015年)	R2年 (2020年)	R5年 (2023年)	R7年 推計 (2025年)
年少人口 (0～14)	893	717	603	576	542	513
生産年齢人口 (15～64)	3,657	3,365	3,003	2,773	2,593	2,527
高齢者人口 (65～)	2,812	2,717	2,768	2,723	2,594	2,596
総人口	7,362	6,810	6,374	6,077	5,729	5,636

(資料:国勢調査、税務住民課)

②日常生活圏域ごとの人口推移

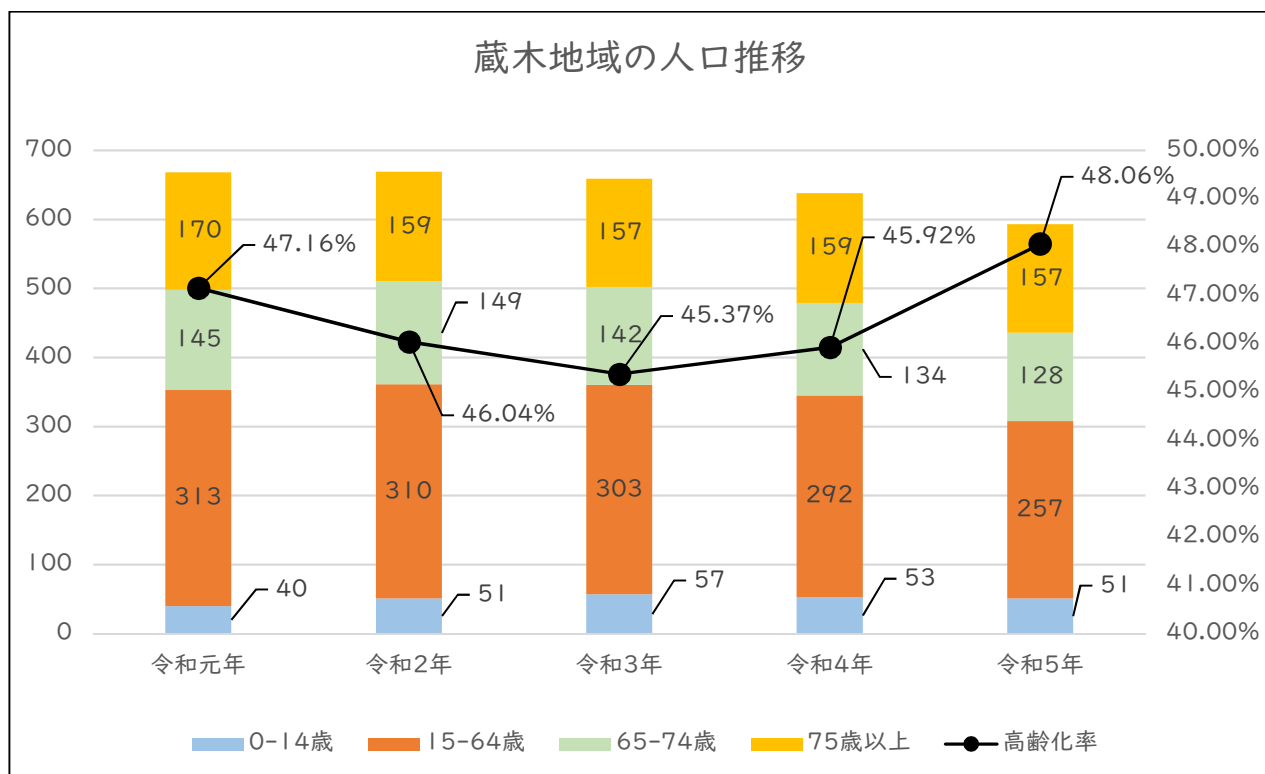
介護保険事業計画における日常生活圏域については、「住民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、公的介護施設等の整備状況その他を総合的に勘案して市町村が定めるもの」とされています。

吉賀町介護保険事業計画では日常生活圏域について、公民館区域ごとに蔵木、六日市、七日市、朝倉、柿木の5地域を設定し、より地域に密着した地域包括ケアシステムの構築を推進しています。日常生活圏域5地域の人口推移については、次のとおりです。（各年度10月末時点）

●蔵木地域

区分	R元年 (2019年)		R2年 (2020年)		R3年 (2021年)		R4年 (2022年)		R5年 (2023年)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
年少人口 (0～14)	14	26	21	30	28	29	23	30	19	32
生産年齢人口 (15～64)	171	142	164	146	156	147	148	144	134	123
高齢者人口 (65～74)	78	67	82	67	77	65	75	59	74	54
高齢者人口 (75～)	61	109	59	100	58	99	60	99	60	97
男女別計	324	344	326	343	319	340	306	332	287	306
合計	668		669		659		638		593	

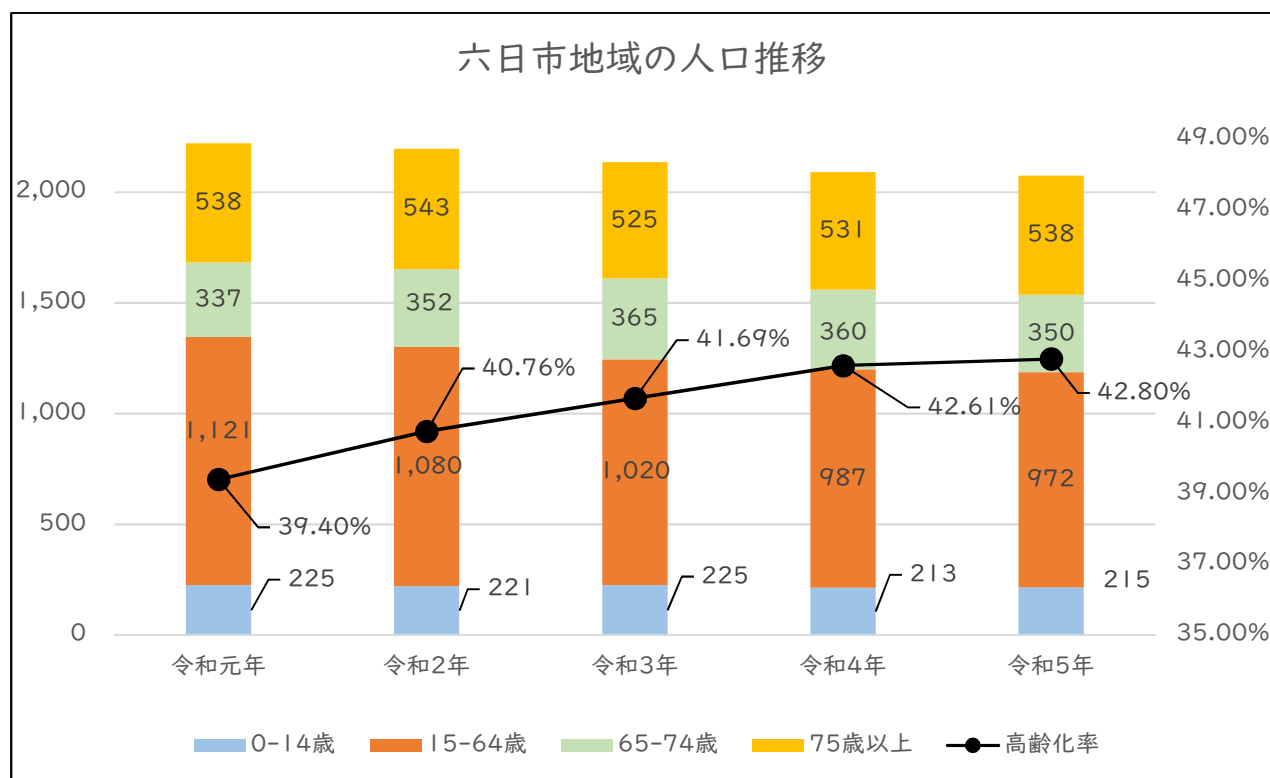
(資料:税務住民課 住民基本台帳データ)



●六日市地域

区分	R元年 (2019年)		R2年 (2020年)		R3年 (2021年)		R4年 (2022年)		R5年 (2023年)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
年少人口 (0～14)	108	117	109	112	109	116	100	113	105	110
生産年齢 人口 (15～64)	622	499	601	479	564	456	545	442	526	446
高齢者人 口 (65～74)	163	174	167	185	178	187	175	185	172	178
高齢者人 口 (75～)	185	353	186	357	170	355	171	360	179	359
男女別計	1,078	1,143	1,063	1,133	1,021	1,114	991	1,100	982	1,093
合計	2,221		2,196		2,135		2,091		2,075	

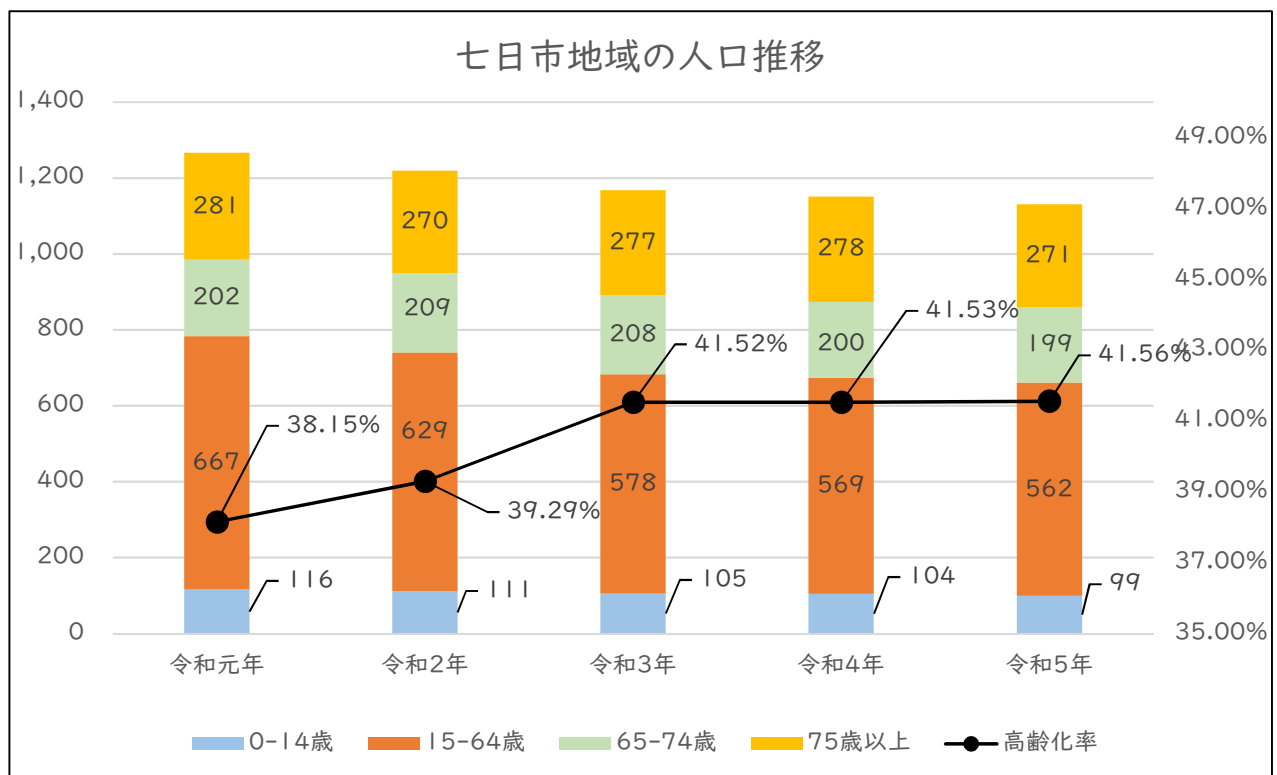
(資料:税務住民課 住民基本台帳データ)



●七日市地域

区分	R元年 (2019年)		R2年 (2020年)		R3年 (2021年)		R4年 (2022年)		R5年 (2023年)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
年少人口 (0～14)	54	62	52	59	52	53	47	57	43	56
生産年齢 人口 (15～64)	361	306	334	295	312	266	304	265	310	252
高齢者人 口 (65～74)	107	95	113	96	117	91	110	90	105	94
高齢者人 口 (75～)	100	181	99	171	99	178	101	177	101	170
男女別計	622	644	598	621	580	588	562	589	559	572
合計	1,266		1,219		1,168		1,151		1,131	

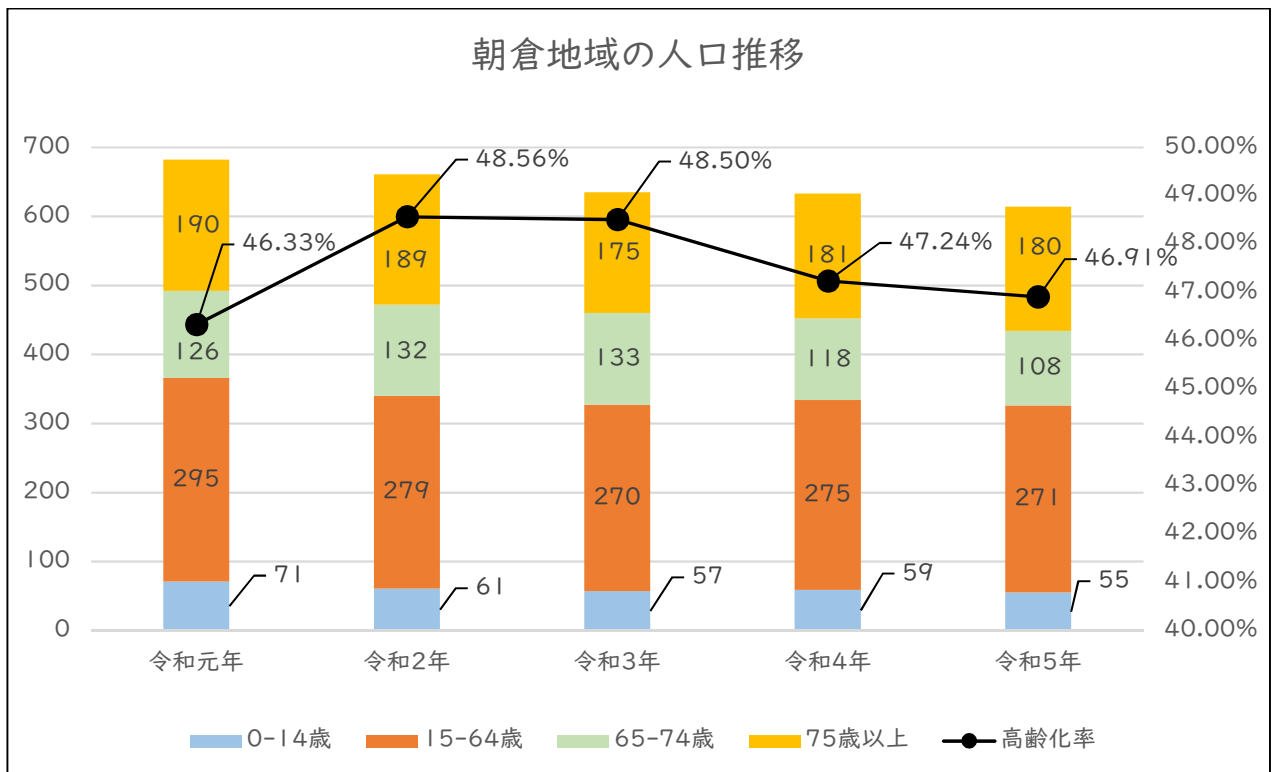
(資料:税務住民課 住民基本台帳データ)



●朝倉地域

区分	R元年 (2019年)		R2年 (2020年)		R3年 (2021年)		R4年 (2022年)		R5年 (2023年)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
年少人口 (0～14)	40	31	35	26	32	25	35	24	30	25
生産年齢人口 (15～64)	162	133	155	124	148	122	151	124	150	121
高齢者人口 (65～74)	62	64	62	70	65	68	56	62	52	56
高齢者人口 (75～)	61	129	64	125	59	116	67	114	69	111
男女別計	325	357	316	345	304	331	309	324	301	313
合計	682		661		635		633		614	

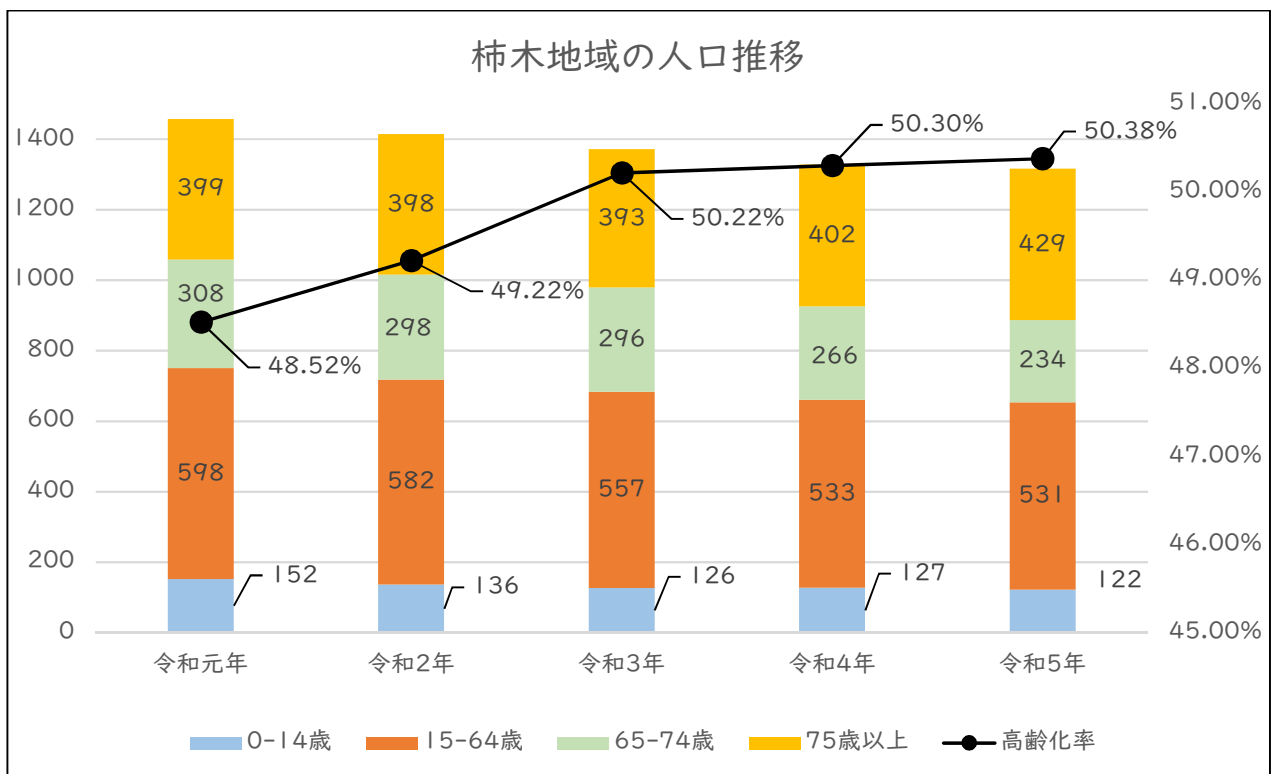
(資料:税務住民課 住民基本台帳データ)



●柿木地域

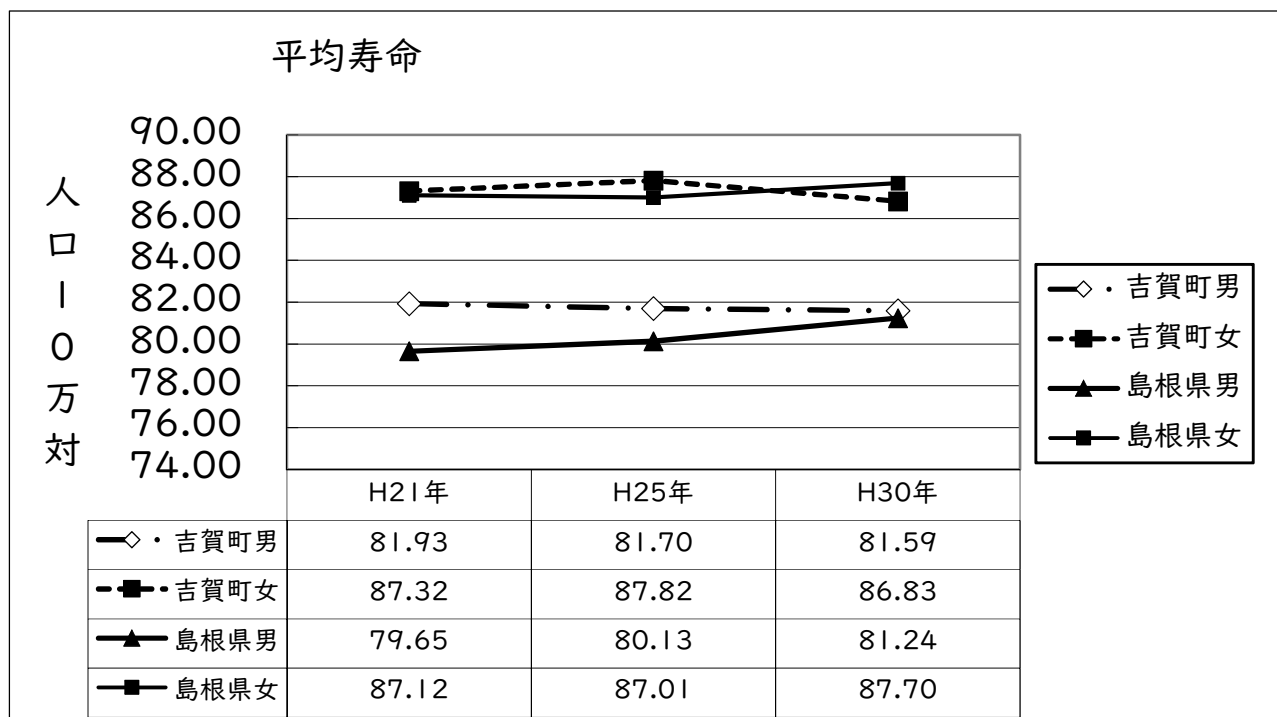
区分	R元年 (2019年)		R2年 (2020年)		R3年 (2021年)		R4年 (2022年)		R5年 (2023年)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
年少人口 (0～14)	75	77	69	67	67	59	67	60	67	55
生産年齢人口 (15～64)	295	303	291	291	278	279	271	262	275	256
高齢者人口 (65～74)	150	158	143	155	141	155	126	140	109	125
高齢者人口 (75～)	146	253	143	255	145	248	151	251	171	258
男女別計	666	791	646	768	631	741	615	713	622	694
合計	1,457		1,414		1,372		1,328		1,316	

(資料:税務住民課 住民基本台帳データ)



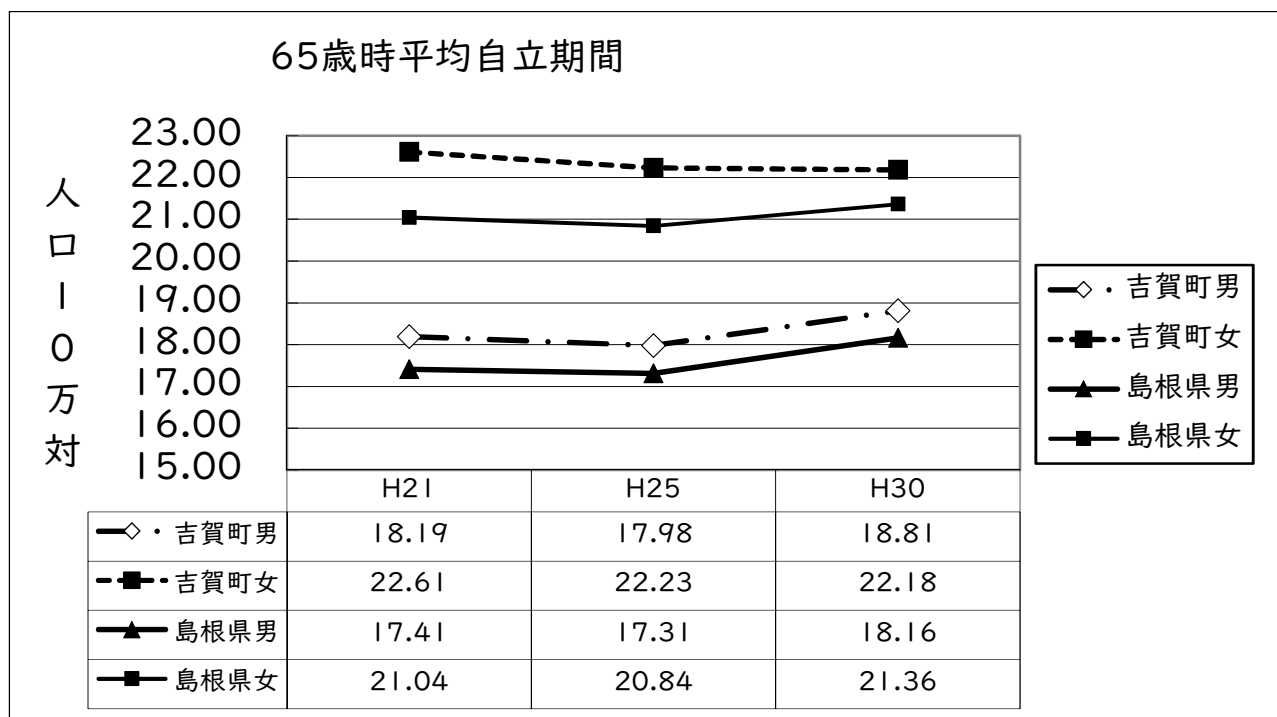
(3) 平均寿命・平均自立期間

□ 平均寿命の推移



(出典:しまね健康指標データベースシステム)

□ 65歳時平均自立期間の推移



(出典:しまね健康指標データベースシステム)

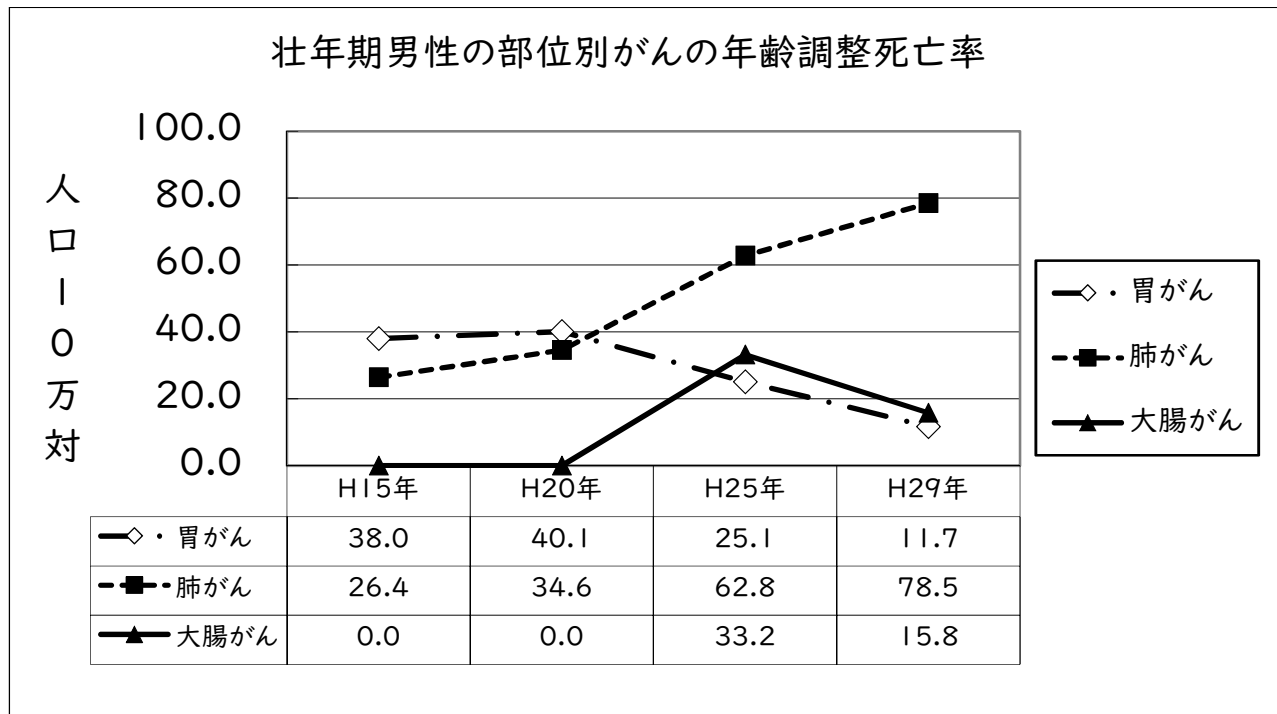
3. 町民の疾病状況

(1) 疾患別の死亡の状況

疾患別の年齢調整死亡率（標記年を中心とした5年間の平均値）を記載しています。

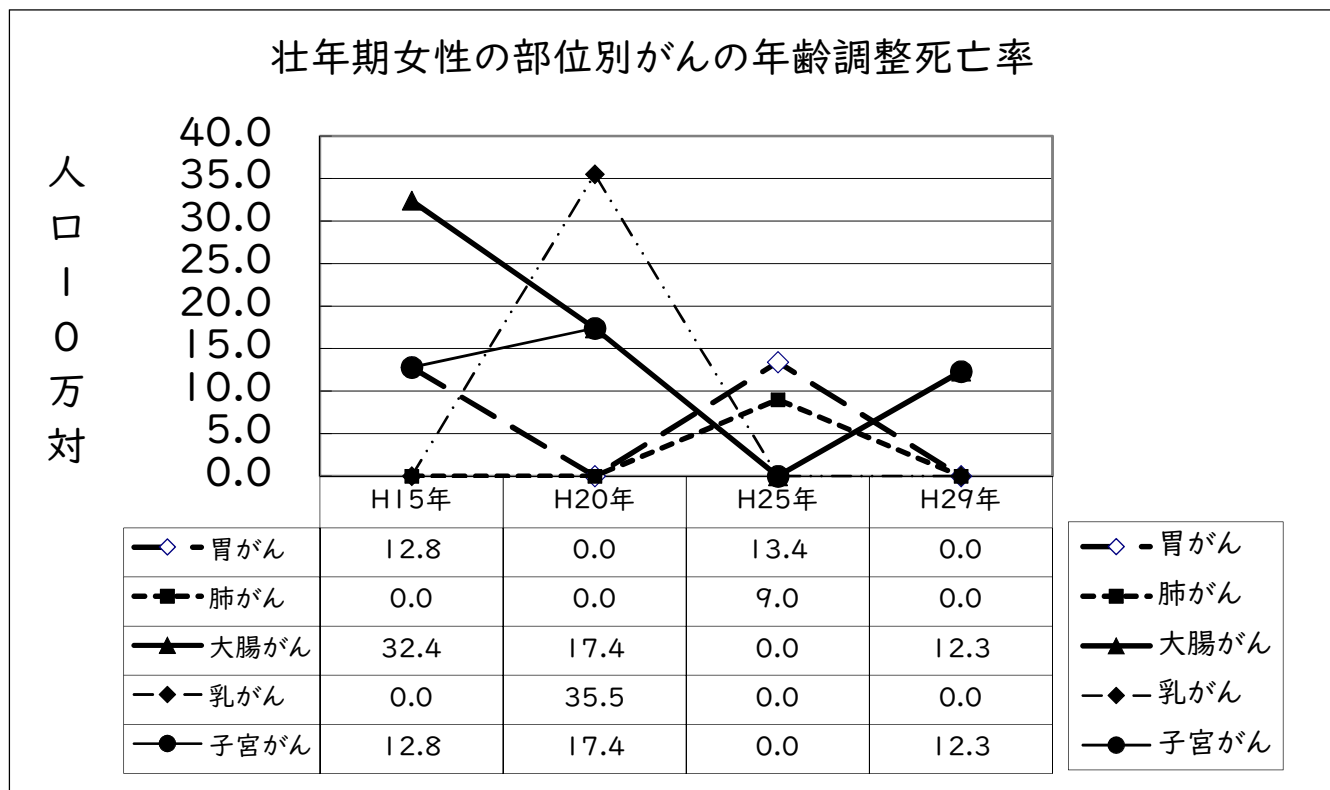
① がんによる死亡

□ 壮年期（40～69歳）男性



（出典：しまね健康指標データベースシステム）

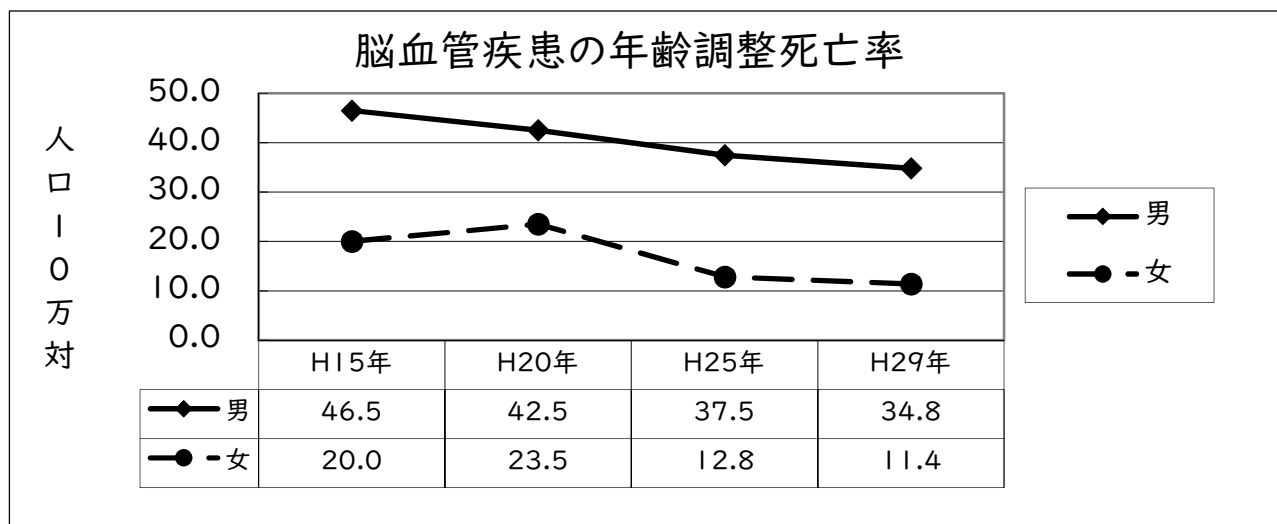
□ 壮年期（40～69歳）女性



（出典：しまね健康指標データベースシステム）

②脳血管疾患死亡

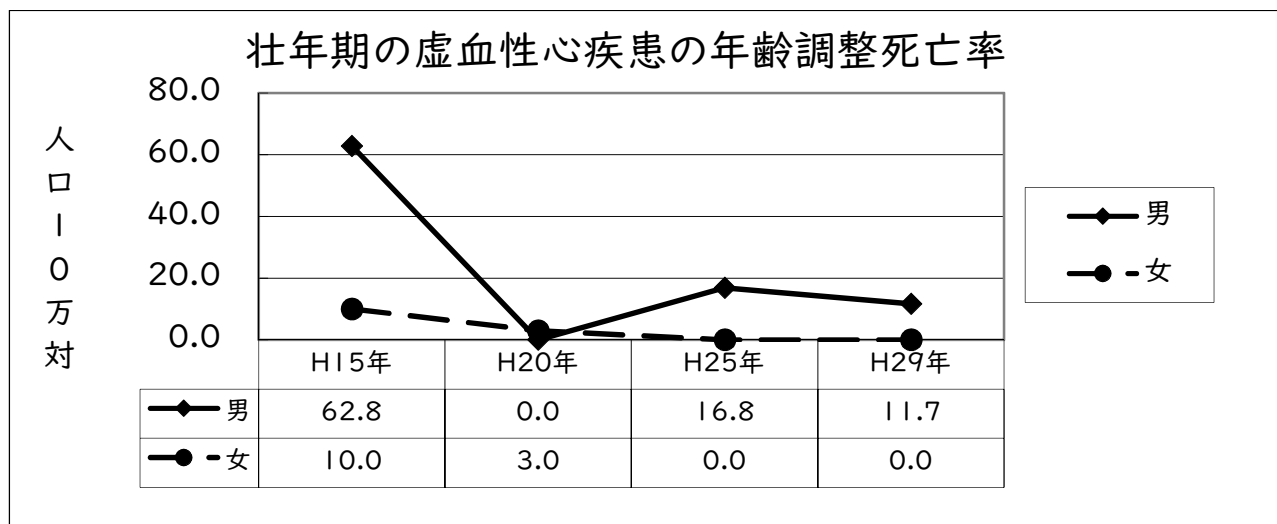
□ 全年齢



(出典:しまね健康指標データベースシステム)

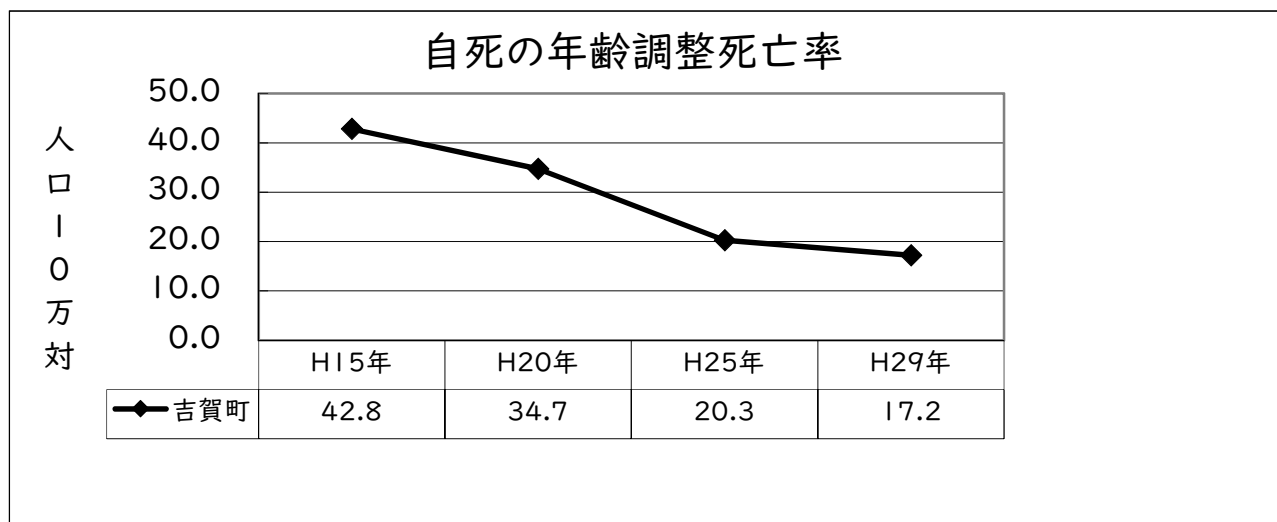
③虚血性心疾患死亡

□ 壮年期(40~69歳)



(出典:しまね健康指標データベースシステム)

④自死による死亡



(出典:しまね健康指標データベースシステム)

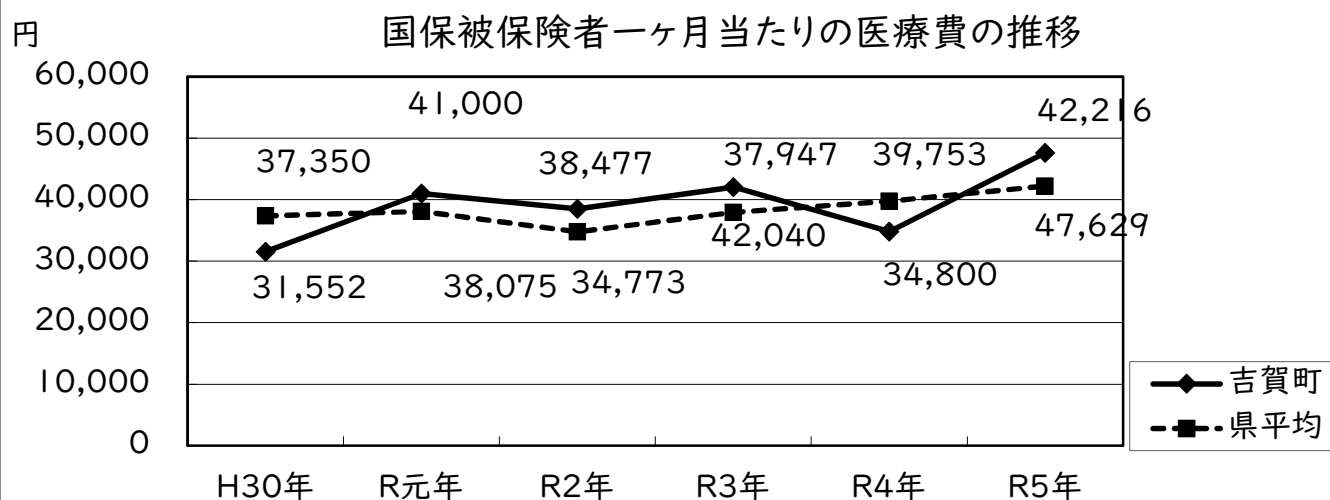
(2) 1人あたりの費用額

国保連合会作成の疾病統計（毎年度5月診療分医療費）によると、吉賀町の国保被保険者一人当たり医療費は、令和元年以降では、令和4年を除くいずれの年度においても県平均を上回っています。これは、新生物（腫瘍）や循環器系の疾患に係る医療費が増大したことが主な要因となっています。

一方、75歳以上が対象となる後期高齢者医療の一人当たり医療費は、依然高い状況が続いており、高齢化がすすむ当町にとっては医療費の側面からも介護予防と健康づくりの取組みが必須であるといえます。

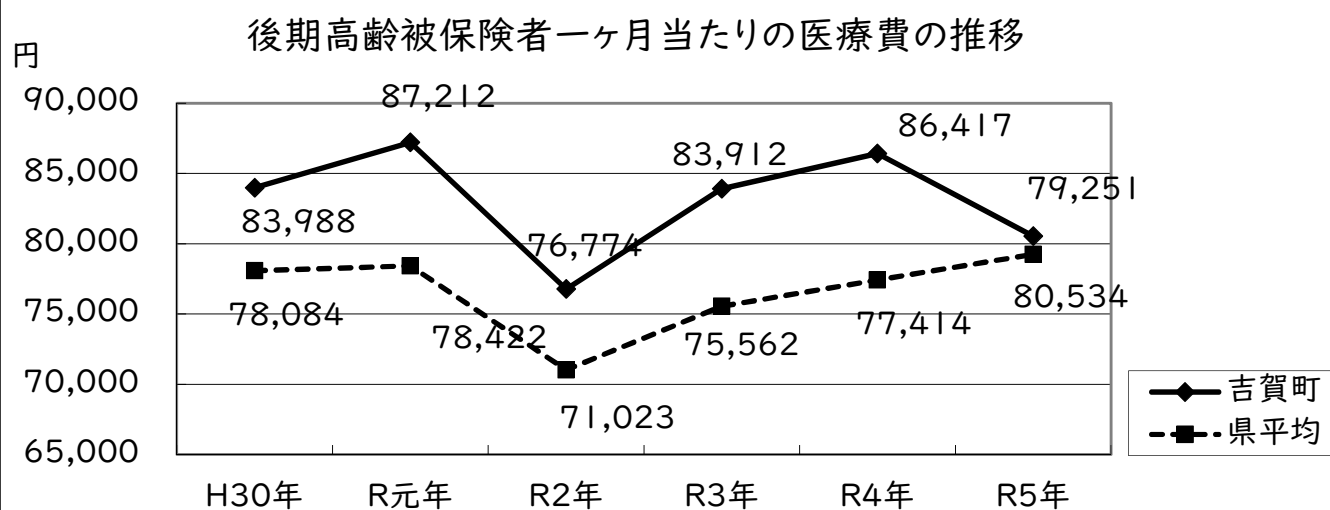
□ 国保被保険者1ヶ月当たりの一人当たり医療費の推移（単位：円）

	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
吉賀町	31,552	41,000	38,477	42,040	34,800	47,629
県平均	37,350	38,075	34,773	37,947	39,753	42,216



□ 後期高齢被保険者1ヶ月当たりの一人当たり医療費の推移（単位：円）

	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
吉賀町	83,988	87,212	76,774	83,912	86,417	80,534
県平均	78,084	78,422	71,023	75,562	77,414	79,251



令和5年の国保医療費上位10疾病の状況は、1位 その他の悪性新生物、2位 その他の消化器系の疾患、3位 その他の肝疾患となっています。

□ 国保医療費 費用額上位10疾病(男女計 入院+入院外+調剤)

(単位:円)

順位	平成28年5月診療分		令和5年5月診療分	
	疾病	医療費	疾病	医療費
1位	高血圧性疾患	4,230,880	その他の悪性新生物	8,051,106
2位	気管等及び 肺の悪性新生物	3,126,360	その他の消化器系の 疾患	4,113,014
3位	糖尿病	2,873,752	その他の肝疾患	3,625,910
4位	統合失調症他	2,815,072	高血圧性疾患	2,870,520
5位	関節症	2,498,240	悪性リンパ腫	2,478,618
6位	歯肉炎、歯周疾患	2,480,600	統合失調症他	2,278,756
7位	その他の悪性新生物	2,058,132	関節症	2,008,104
8位	その他の眼及び 付属器の疾患	2,034,612	その他の神経系の疾患	1,801,900
9位	肝臓や胆管の悪性新生物	1,976,914	骨折	1,724,658
10位	その他の内分泌、 栄養及び代謝疾患	1,953,500	歯肉炎及び歯周疾患	1,615,310

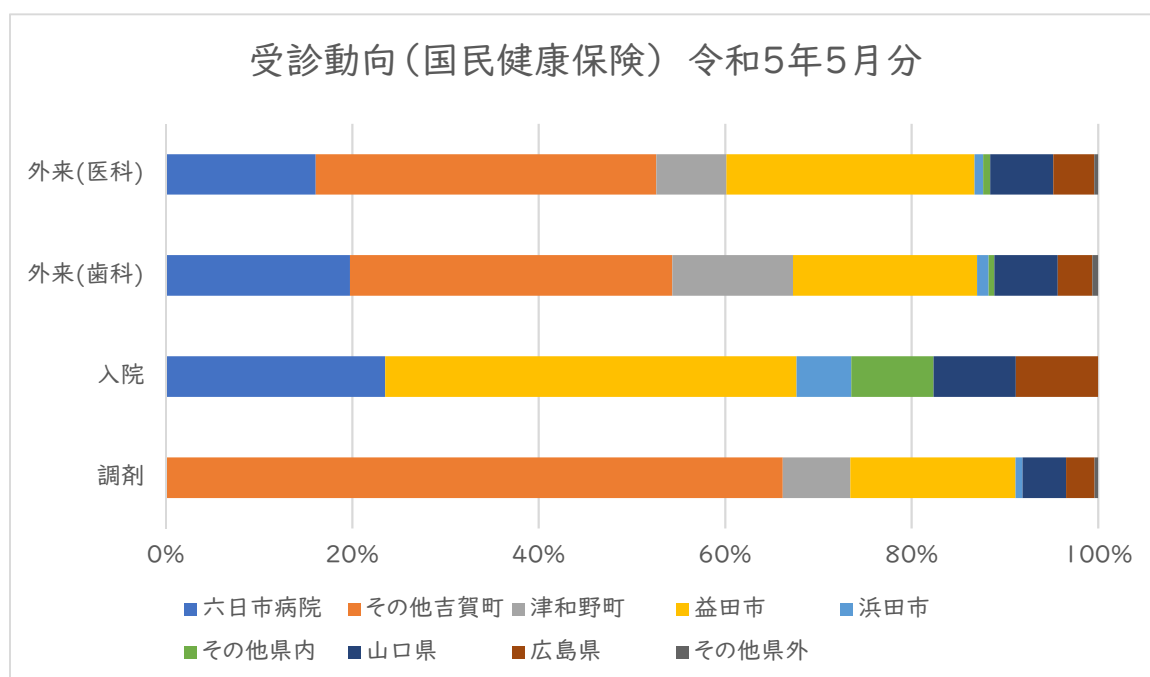
(3) 吉賀町民の受診動向

令和5年5月診療分のレセプトデータを使い、患者の疾病ごとの受診動向（どこの医療機関に何の疾病で受診したか）を調査しました。調査対象者は吉賀町民5,746人のうち国民健康保険被保険者1,171人及び後期高齢者医療保険の被保険者1,576人の合計2,747人（吉賀町民の約47.80%）です。

□ 国民健康保険被保険者の受診動向

外来については、町内での受診率が医科では52.6%、歯科では54.3%となっています。調剤については町内での処方が66.2%となっています。また、益田圏域における外来受診率は86.8%を占めています。

入院については、六日市病院が23.5%、益田市が44.1%となり、益田圏域で見ると全体の67.6%を占めています。



単位: 件

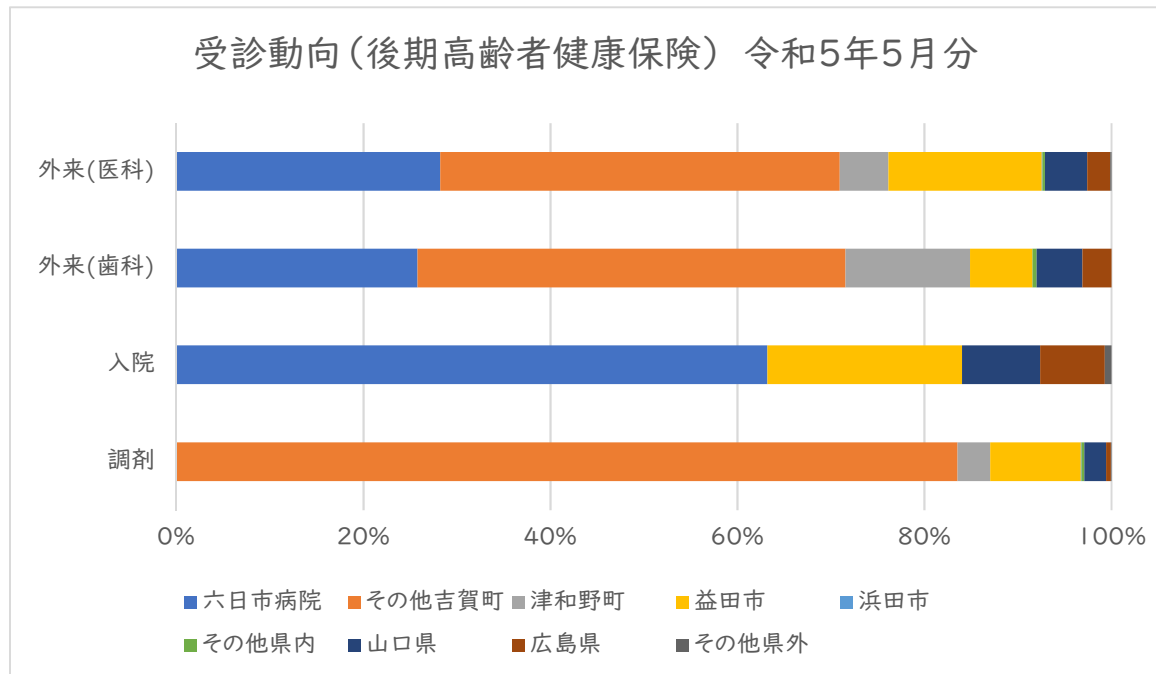
	六日市 病院	その他 吉賀町	津和野町	益田市	浜田市	その他 県内	山口県	広島県	その他 県外
外来 (医科)	154	350	72	255	9	7	65	42	4
外来 (歯科)	32	56	21	32	2	1	11	6	1
入院	8	0	0	15	2	3	3	3	0
調剤	0	538	59	144	6	0	38	25	3

(資料: 国民健康保険レセプトデータ)

□ 後期高齢者医療保険被保険者の受診動向

外来については、医科・歯科ともに町内での受診率が約70%を占めており、調剤については町内での処方率が83.5%となっています。また、益田圏域における外来受診率は92.5%を占めています。

入院については、六日市病院が63.2%、益田市が20.8%となり、益田圏域で見ると全体の84%を占めています。



単位：件

	六日市 病院	その他 吉賀町	津和野町	益田市	浜田市	その他 県内	山口県	広島県	その他 県外
外来 (医科)	520	787	96	302	1	5	83	46	2
外来 (歯科)	58	103	30	15	0	1	11	7	0
入院	91	0	0	30	0	0	12	10	1
調剤	0	1,354	57	157	1	5	38	8	1

(資料：後期高齢者医療保険レセプトデータ)

4. 吉賀町の医療機能の状況

(1) 益田構想区域の医療機能

益田構想区域の人口は減少傾向であり、高齢化率については2015年国勢調査の値で37.14%、2025年推計値で41.9%となっており年々増加する見込みです。

益田圏域におけるステージごとの医療機能の状況は次のとおりです。

分類	医療機能の状況
高度急性期	益田赤十字病院が担っており、対応が困難なものについてはドクターヘリにより区域外の救命救急センターで対応しています。
急性期	救急告示病院である益田赤十字病院、益田医師会病院が担っています。また、認知症を含む精神科疾患患者の急性期医療は、松ヶ丘病院が担っています。
回復期	益田医師会病院が区域内で唯一回復期リハビリテーション病棟を有しており、回復期患者の対応を行っています。また、地域包括ケア病床を有する益田医師会病院、津和野共存病院が担っています。 よしか病院では一般病床を設置し、回復期患者の受け入れを行っています。
慢性期	益田医師会病院が担っています。 区域内人口の高齢化や中山間地域特有の世帯の点在といった地理的要因等によって、在宅療養を選択することが困難な状況があります。慢性期を担う各病院とも患者の長期療養は避けられず、医療処置が必要な患者の「看取りの場」となっている現状があります。
在宅医療等	高齢者単身世帯、高齢者のみの世帯が増加する中、家庭介護力が低下しています。また、世帯の点在により在宅サービスの提供が厳しい地域があります。 開業医の高齢化による診療所維持の課題、訪問看護師や在宅サービスを担う介護人材の不足といった課題があります。

(資料: 島根県地域医療構想から一部抜粋)

(2) 吉賀町の医療機能

①診療所の状況

町内の診療所については、6施設あり、かかりつけ医として一次医療の役割を担っています。

(令和6年3月1日現在)

区分	診療所名(医師数)	診療科目
一般診療所	小笠原医院(1)	内科、麻酔科
	栗栖医院(1)	内科、小児科、形成外科
	松浦内科胃腸科(2)	内科、胃腸科
	よしかクリニック(1)	内科(訪問診療のみ)
歯科診療所	おがさわら歯科(1)	歯科
	こうの歯科(1)	歯科

②よしか病院の状況

令和6年3月1日より町内唯一の病院として「よしか病院」を開設しました。運営については、医療法人カタクリ会の指定管理により行われています。

病床機能は急性期病床の50床を有しており、急性期の治療が終了した患者を受け入れ、リハビリテーションなどのケアを行うことで、在宅復帰や必要に応じて施設入所に向けた支援を行います。医療従事者等の体制が整い次第、急性期病床のうち30床を回復期病床(地域包括ケア病床)へ転換する予定です。

また、よしか介護医療院も併設されており、医療的ケアが必要な要介護認定者に対する施設サービスを提供しています。

外来診療科目について、令和6年3月1日の開設時点において、常設でない診療科目も含め、総合診療科(内科)、歯科口腔外科、整形外科、眼科、皮膚科、小児科の診療を行っています。また、令和6年4月からは精神科・心療内科を開設する予定です。

病床機能及び病床数	一般病床(回復期) 50床、介護医療院 53床
外来診療科目	総合診療科、歯科口腔外科、整形外科、眼科、皮膚科、小児科、精神科・心療内科(予定)
その他のサービス	訪問診療 介護医療院(53床)、短期入所療養介護* 訪問リハビリテーション*、通所リハビリテーション* 居宅療養管理指導*、訪問看護*(予定) ※ *は介護予防サービスも含む